

8－（2） 潮流情報の収集と発信

太田太郎

目的

平成 23 年度に設置した沿岸潮流観測ブイを適切に管理し、得られた情報を潮流情報自動提供システムにより円滑に漁業者に提供する。また、沿岸潮流観測ブイで得られたデータ及び、毎月の海洋観測により得られた潮流データ（参照：1. 海洋環境変動調査）については、日本海区水産研究所等と共同で研究を進めている日本海急潮予測システムの開発のためのデータとして活用する。

なお、本事業の一部は新たな農林水産施策を推進する実用化開発事業の委託研究費※により実施した。

方法と結果

① 沿岸潮流観測ブイの保守

鳥取市酒津沖及び大山町御崎沖に設置した観測ブイ（図 1）の平成 25 年度の管理の経緯について、表 1 に示す。なお、管理は基本的に漁業者（鳥取県潮流情報利用調整協議会：平成 24 年 9 月設立）が実施することとなっているが、技術的な指導を行うため、管理作業には水産試験場の職員が立会った。

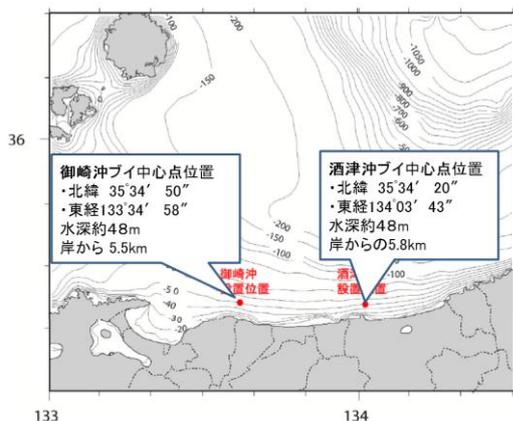


図 1 沿岸潮流観測ブイの設置位置

今年度は、12 月に酒津ブイで不調が発生し、観測データを取得出来ない期間も生じたが、それ以外は大きなトラブルもなく、概ね順調に観測を継続することが出来た。

なお、酒津ブイについては、平成 26 年 1 月から 3 月の間、陸上げメンテナンスを実施する

ため、観測を休止した。

② 潮流情報の提供

平成 23 年度に整備した潮流情報自動提供システムにより、電話応答サービス、ホームページ、FAX 送信等で漁業者に潮流情報をリアルタイムに提供した。平成 25 年 12 月 31 日時点の漁業者の利用登録件数は 335 件で、平成 25 年 4 月 1 日から平成 25 年 12 月 31 日における電話応答サービスの利用数は 20,181 件、ホームページのアクセス数 11,194 件だった（図 2）。

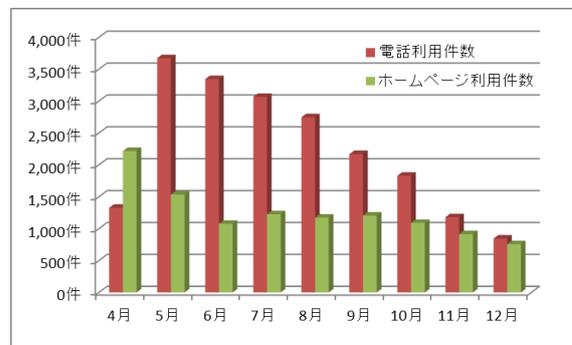


図 2 潮流自動提供システムによる電話応答サービス利用者数とホームページのアクセス数

③ 日本海急潮予測システムの開発

潮流観測ブイで得られたデータ及び毎月の海洋観測で得られた航行観測によるデータは専用のフォームに変換後、日本海区水産研究所が管理するデータベースへ登録した。

表1 沿岸潮流観測ブイ維持管理の経緯（平成 25 年度）

日時	御崎沖	酒津沖
H25. 4. 16	御崎ブイ補修+清掃（御来屋定置船）	
H25. 8. 23		清掃（漁協浦富定置網漁船）
H25. 9. 12	清掃作業（漁協御来屋支所定置網漁船）	
H25. 12 月末		不調発生
H26. 1. 16		清掃、陸上げメンテナンスのための引き上げ（漁協浦富定置網漁船）
H25. 1. 23	清掃作業（漁協御来屋支所定置網漁船）	
H25. 3 月予定	清掃作業（漁協御来屋支所定置網漁船）	清掃、陸上げメンテナンス後の再設置（漁協浦富定置網漁船）